

地域におけるデジタル技術の利活用を支えるデジタル基盤の利用環境の在り方
ワーキンググループ(第2回) 議事概要

1. 日時

令和6年3月11日(月) 15時~17時

2. 場所

オンライン

3. 出席者(敬称略)

構成員: 中尾 彰宏(主査)、大山 りか(欠席)、小林 寛史、成末 義哲、太田 香(欠席)、黄瀬 信之

オブザーバー: テレコムサービス協会事務局、一般社団法人 電気通信事業者協会(TCA)、一般社団法人日本インターネットプロバイダー協会(JAIPA)、一般社団法人日本ケーブルテレビ連盟、東日本電信電話株式会社(NTT 東日本)、西日本電信電話株式会社(NTT 西日本)、株式会社 NTT ドコモ、KDDI 株式会社、ソフトバンク株式会社、楽天モバイル株式会社

4. 議事概要

(1)地域における通信環境の実態調査 結果報告②

- ・三菱総合研究所(MRI)から資料 2-1 を説明
 - ・資料 P.6 にある⑤の将来的な課題について内訳があれば教えてほしい。(成末構成員)
- ①~④の顕在化している課題認識と傾向は変わらない。(MRI)

(2)デジタルを活用した地域課題解決のユースケースごとに求められる非居住地域を中心とした利用環境整備の在り方

①黄瀬構成員ご発表(資料 2-2)

- ・色々な施策に取り組んでいるが、岩見沢市の現在の課題を教えてください。(中尾主査)
- 岩見沢市全地域に光ファイバーが届くまでは、企業のみならず一般住民も通信速度等に不満を感じていた。全地域に 5G が必要ではなく、地域 BWA を活用するなど地域ごとに必要な回線を選択すべき。(黄瀬構成員)

②小林構成員ご発表(資料 2-3)

- ・交通分野について 4 つのエリアごとに提供方法が異なるとマネタイズも変わると思うが、どうお考えか。(成末構成員)

→1つの管制室で4つの路線を監視できるようにして効率化する。デジタル化により運用拠点を集約できるメリットがある。(小林構成員)

③京都府・塩崎参事ご発表(資料 2-4)

・単独の市町村では限界があり、市町村以上のブロック単位で意識を統一する必要がある、相互に連携したい。(黄瀬構成員)

(3)新たな通信ネットワークについて

①NTT 東日本・西日本、NTT ドコモご発表(資料 2-6,2-7)

・光ファイバー回線を敷設できない場合、対策はどのように分類しているのか。(成末構成員)
→光回線が最も安定するが、工事不要で短時間に設置するのは Home 5G が有効であり、お客様の要望やニーズ、設置場所の状況に応じて対策している。(NTT 東日本)

②KDDI ご発表(資料 2-5)

・被災地における Starlink はスポット利用が前提だと思うが、日常的に利用されるのはどのような場合があるか。(成末構成員)

→スポット利用がメインだが、復旧フェーズに入ると学校や医療施設で日常的に利用したいとの要望が出てくると想定している。(KDDI)

(4)構成員からコメント

①小林構成員

低廉な予算でデジタル環境を提供していただけると助かることは間違いない。地域の事例は横展開して連携できればいい。

②黄瀬構成員

まず各地域がデジタル環境の整備を自分事化して考えて、デジタル化の機運を高めることが重要。

(5)事務局からの連絡事項

・本日のプレゼン内容について追加の質問があれば、3月14日(木)17時までに事務局へ連絡。

・次回 WG の開催日程は後日事務局から案内する。